

2021 年度第 10 回執行理事会議事録

日程：2022 年 3 月 19 日（土）13:00-18:00【WEB 会議】

出席：磯崎・佐々木・中澤・岡田・緒方・ウォリス・亀高・坂口・小宮・辻森・星（15:30 より）・大藤・狩野・松田・高嶋，矢部（14:00 より），岩部（監事）

欠席：平田

事務局 澤木

*定足数（過半数：9）に対し，17 の出席

*前回議事録（21-9 回）確認

報告事項

1. 全体的報告

- ・ 学術会議より，次期会員候補者の選考プロセスに関する意見聴取があった。学会から回答は行わなかった。
- ・ 2021 年度地質系若手人材動向調査を実施中。地球科学系の大学教員の会員に向けてメールでの回答を依頼した（担当坂口。4/15 回答期日）。
- ・ 学会活性化に関わる会費等の変更について（佐々木）：変更内容については 1 月 20 日に理事会メンバーに配信した。現在までに意見はない。会員に対しては概要版を学会 HP に 2 月 15 日から掲載，周知中。現在までに会員からの問い合わせはない。予定どおり 1 月 20 日配信内容を日付け変更して 4 月 9 日の理事会に諮る。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等>

- ・ 令和 4 年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集（3/4 締切）【→geo-flash，ニュース誌 2 月号掲載済】
- ・ 地質情報展 2022 あいち（地質学会共催）の開催報告があった。2/19-20 開催。来場者 424 名（2/19：146 名，2/20：278 名）。
- ・ 第 36 回 GSJ シンポジウム「3 次元で解き明かす東京都区部の地下地質」（地質学会後援）の事業終了報告があった。2 月 25 日開催。参加者 544 名。
- ・ 2022 年度朝永振一郎記念第 17 回「科学の芽」賞（22/8/16-9/18 募集）への後援依頼あり，承諾した。
- ・ 地盤技術フォーラム 2022（22/9/14-16 東京ビックサイト）への協賛依頼があり，承諾した。
- ・ 日本学術会議公開シンポジウム「チバニアン，学術的意義とその社会的重要性」（5/24，ハイブリッド開催）への共催依頼があり，承認した。
- ・ 令和 3 年度東レ科学技術賞，科学技術研究助成及び理科教育賞の決定について報告があった。（令和 3 年度学会推薦なし）。

<会員>

1. 今月の入会者（10 名）
2021 年度入会（2 名）

正会員（1名）：栃本泰浩

正（院割）会員（1名）：大森 光

2022年度入会（8名）

正会員（5名）：土屋輝真・大江 健・竹下光士・堀内美穂・川口允孝

正（院割）会員（3名）：中村 拓・阿部日誉里・木村太星

2. 今月の退会者（なし）

3. 今月の逝去者（2名）

名誉会員（1名）：木崎甲子郎（逝去日：2022年2月26日）

正会員（1名）：清水康守（逝去日：2022年2月26日）

4. 2022年2月末会員数

賛助：27, 名誉：38, 正会員：3295 [正会員：3169, 院割：118, 学部割：8], 合計 3360 (昨年比-72)

<会計>

特になし

<その他>

- ・ 会員クラウドシステムが納品され、画面動作を確認、調整中。3月末～4月上旬に会員への公開を予定している。

3. 広報部会（坂口・小宮）

1) 広報委員会（坂口）

- ・ 2/28 フォトコンテスト審査会を開催し（zoom, 委員長 白尾元理）、入選（12点）、佳作（19点）が決定した。学会HPで作品画像公開予定。5/13-15 東京パークスギャラリー（上野公園）で作品展示会を開催する。
- ・ ロシアによるウクライナ攻撃に関して学術会議および JpGU から声明が公表され、各国学協会の状況が情報共有された。

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1) 行事委員会（星）

- ・ 2022 早稲田大会トピックセッション：14件が提案された。学術研究部会（辻森・ウォリス・星）で検討し、すべて採択することにした。ジェネラルセッションも含めて、早稲田大会では合計 15 セッションを設定する。
- ・ 2023 京都大会（2023/9/17-19, 大会委員長：山路 敦, 事務局：佐藤活志）は、会場予約の申請等準備が進んでいる。
- ・ 地学教育委員会行事委員の交代（田村糸子氏→矢島道子氏に交代）があった。暫定的な交代。できるだけ早く若手の委員を選出していただくよう地学教育委員会に依頼した。

2) 専門部会連絡委員会（辻森）

- ・ 4月理事会での報告のため、各部会へ年次報告の提出を依頼中。

3) 国際交流委員会（ウォリス）

- ・ IGC（2024 韓国）巡検関連について、IUGS Executive Committee Meeting（5/16-17, 於フランス, パリ）

で西 弘嗣委員から状況説明がなされた。次回日韓交渉の日程を調整中。

4) 地質標準化委員会 (辻森)

- ・ 地質図に関する JIS (JIS A 0204, JIS A 0205A) の改正とその経緯について、ニュース誌 3 月号に解説文を掲載した。

5) 選挙管理委員会 (中澤)

- ・ 3/15 に理事選挙開票を行った。得票数同数が 3 名いたため、選挙規則第 7 条に則ってくじ引きを実施する。最終選挙は 3/22 に再度委員会を開催して確定する予定。
- ・ 今回の選挙日程に合わせて、選挙管理委員会補助要員 (事務局職員 2 名) の委嘱期間を 3 月末まで延長する。

5. 編集出版部会 (大藤・狩野)

1) 地質学雑誌編集委員会 (大藤)

(1) 編集状況報告 (2022 年 3 月 15 日現在)

- ・ 2022 年投稿論文: 23 [内訳] 論説 7 (和文 7), 総説 3 (和文 3), ノート 1 (和文 1), レター 3 (和文 3), 報告 1 (英文 1), フォト 1 (和文 1), 巡検案内書 7 (昨年比+18)
査読中: 32, 受理済み: 5
- ・ 128 巻: 公開済み 4, 入稿・校正中 1,

(2) その他

- ・ 編集規則の改訂 (審議事項へ)
- ・ 巡検案内書の公開方法について (審議事項へ)。

2) アイランドアーク編集委員会 (狩野)

(1) 編集状況報告

- ・ 編集委員の原稿担当状況等が情報共有された。
- ・ IF が大幅に向上する見込みである。2021 年 IF は 6 月公表予定。

3) 企画出版委員会 (小宮)

特になし

6. 社会貢献部会 (松田・矢部・高嶋)

1) 地学教育委員会 (高嶋)

- ・ 令和 4 年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書について (審議事項へ)

2) 地質技術者教育委員会 (佐々木)

- ・ JABEE シンポジウム: オンラインシンポジウムが 3 月 6 日が開催され, 幅広い業種と年齢層の約 150 名が参加した。アンケートでの満足度も 91% と好評であった。シンポの内容は YouTube で公開し広く視聴できるようにする (3/25 公開済み)。
- ・ JABEE 地球・資源分野: 新体制の発足に対して地質学会から 5 名を推薦した。新体制の規則案が提示され, 地質技術者教育委員会で精査して規則修正提案を行った。新体制は 4 月 1 日に発足する。
- ・ 土質・地質技術者生涯学習協議会 (GEO ネット): 定例会議がオンラインで 3 月 15 日に行われた。CPD 登録改正等の説明があった。地質技術者教育委員会が会員向けに解説する。

3) 生涯教育委員会（矢部）

- ・ 文部科学省より令和 4 年度科学技術週間（2022/4/18-24）への協力機関登録及び行事情報提供依頼があり、機関登録を行い、2022 年「地質の日」関連行事（フォトコン入選作品展、オンライン講演会）を登録した。

4) 地震火山地質こどもサマースクール（松田）

特になし

5) 地質の日（矢部）

- ・ オンライン一般講演会を 5/8（日）に実施する。テーマと講師は次の通り。斎藤 眞理事：地質が身近にある社会を創る-新しい分野への活用に向けて-。鹿野和彦氏：海底火山の世界を探る「爆発的海底噴火とその噴出物」。
- ・ 街中ジオ散歩の実行委員会を 3/6（日）にオンラインで実施した。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着きつつあることから、今後悪化しないことを前提に、5/15（日）に開催すべく準備を進めている。募集人数を例年よりも縮小（15 名）、時間も半日に短縮して、国分寺駅周辺で実施する予定。4/3（日）に幹事で下見を行う予定。
- ・ 「地質の日」事業推進委員会の 2022 年ポータルサイトが公開となった。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会

1) 利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（委員長天野：代理平田）

- ・ 第 2 回 JGASU 会議の報告。3 月 15 日（火）10 時～11 時 30 分 オンライン会議を行った。議題は次の通り。
①ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請書の机上審査について：推薦希望が 1 件あり、レビューアの選定について関係学会から推薦する。②今後の JpGU セッションの参加形態について：2022 年大会は特別措置で参加できるが、来年度以降については JpGU 事務局と調整する。③IUGS GEOLOGICAL HERITAGE SITES の選定について：IUGS では 2022 年に世界の地質遺産サイトを 100 カ所選定するとの報告があった。

2) 地学オリンピック支援委員会（高嶋）

- ・ 地学オリンピック本選が 3 月 13 日～15 日、つくば市において対面方式で実施された。
- ・ 国際オリンピック参加者 4 名が選出された。国際大会はイタリアがホストとして 8 月にオンラインで開催される。

3) 支部長連絡会議（平田）

特になし

4) 地質災害委員会（松田）

- ・ 第 13 回防災学術連携シンポジウムが開催される。2022 年 5 月 9 日（月）、テーマ：「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」。応用地質学会と地質学会の共同での発表が予定されている。タイトル「地形・地質から読み解く自然災害の変化と応用地質学的対応（仮）」日本応用地質学会・日本地質学会 稲垣秀輝・高見智之

- 5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)
 - ・ 2022年2月11日に理事, 専門部会から推薦された候補者の推薦文を受領し, 13名の委員が検討を開始した。委員と候補者との利益相反関係を確認したのち, 3月1日, 14日に2回のオンライン会議を開催し, 委員会としての意見をまとめた。その結果, 3名の名誉会員候補者を選定したので理事会に推薦する。
 - ・ 推薦にかかる規則と選出の状況が詳細に説明された。最適な推薦人数, 推薦プール制度の詳細, 選出基準等検討すべき課題があげられた。
- 6) 各賞選考委員会 (中澤)
 - ・ 賞の定義や対象資格等をさらに明確化することや選考の流れ等, 今年度選考の過程での問題点があげられた。次期委員会への申し送り事項として再度整理して4月理事会で報告いただくこととした。問題点については, ワーキンググループを設置して検討していきたい。
- 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長 堀 利栄)
 - ・ 早稲田大会でのダイバーシティロゴの導入について (→審議事項へ)
- 8) 連携事業委員会 (中澤)

特になし。

9. 研究委員会

- 1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)
 - ・ 4月理事会にて委員会の解散を予定している。
- 2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)

特になし

審議事項

1. 2022年早稲田大会関連
 - 1) シンポジウムが2件提案された：①現代（人新世）における地質学：学問のあり方と社会への貢献（執行理事会提案），②関東の地質：露頭から大深度地下まで（LOC提案）。4月理事会にて審議する。
 - 2) 講演会等（大学開催分）の開催方法：7月初めまでに開催方法を決定する。開催方法ごとの詳細な実施方法と、それぞれの注意事項が提案された。現時点では、表彰式、シンポジウム、市民講演会、セッション（口頭発表）等は対面で行い、ポスター発表は昨年同様 e-poster での実施が望ましいと考える。対面での懇親会は行わない。e-poster は対面の口頭発表との同日開催が難しいので別日開催を検討する。昨年大会の経験と社会状況を鑑みながら検討を進める。
 - 3) 巡検実施に向けてのルール・依頼事項

感染予防を図りつつ巡検を実施するための手順が提案された。大枠について承認し、承認された内容を LOC に伝えることとした。一部については更に詰めていくこととした。
2. 大学入試センターへ令和4年度大学入試共通テストの地学関連科目の評価と地磁気に関する正確な記述についての意見書を送付することとした（3/29送付）。
3. 地質学雑誌投稿編集出版規則の改訂

プレプリントサーバー掲載済みの原稿の取り扱いと、二次情報の引用方法に関する記述を加える等規則改訂案が示された。4月理事会で提案予定。

4. 巡検案内書の公開方法について

アウトリーチ巡検等普及を目的とした一般市民（非専門家）対象の巡検案内書は、現行規則に沿った原稿作成では適さない場合がある（日本語のみの図表の方がわかりやすい等）が、規則に則っていない原稿は地質学雑誌への掲載が難しい。そのため付録（Appendix）を活用したり、学会 HP 上で原稿を公開とすることとした。J-STAGE 公開分の案内書と合わせて学会 HP 上で Virtual Issue を構成するなどして、読者の利便性にも配慮する。

5. 法地質学研究委員会設立について

委員会設置のための趣意書案と委員会規則案が事前に提出された。内容を確認し、委員会英語名称を追加して、4月理事会での研究委員会設置の提案を行ってもらうこととした。

6. 国際基礎科学年（IYBSSD）への協力依頼について

国連総会で、2022/6/30-2023/6/30を「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」とすることが決議され、日本学術会議より関連学協会に対して、IYBSSDの趣旨を踏まえたシンポジウムやイベント開催等の協力依頼があった。地質学会としても趣旨に賛同し、積極的に取り組んでいくことが確認された。支部活動でも取り組んでもらうよう働きかける。

7. 研究奨励金支給規則案

竹内圭史会員からの寄付を原資とした「一般社団法人日本地質学会研究奨励金」制度設立の具体案が提案された。支給対象は、フィールドワークを主体とする調査研究を想定している。理事会でさらに議論し、細かな点を整え、最終的には9月理事会での承認を目指す。

8. 新設賞英語名称

賞の英語名称は規則で定められてはいないが、学会 HP での掲載等、対外的に示すことがあるので確認しておくことが望ましい。以下の通り新設賞の英語名称を定めた。功績賞：Outstanding Contribution Award/H. E. ナウマン賞：H. E. Naumann Award/地質学雑誌特別賞：JGSJ Short Publication Award/都城秋穂賞：Akiho Miyashiro Award/フィールドワーク賞：Fieldwork Award

9. 2021 事業実績概要・2022 事業計画骨子案

理事会での意見を踏まえて文言修正を行い、承認した。4月理事会で最終提案を行う。

10. 2022 年早稲田大会でのダイバーシティロゴの導入について

ダイバーシティ&インクルージョン意識的啓発及びキャリア支援事業として、大会セッションでの EDI (Equality, Diversity and Inclusion) ロゴマークと ECS (Early Career Scientists) ロゴマーク付与の実施が提案された。2021 年大会での試行結果を元に委員会で再考が行われている。4月理事会で正式に提案していただくこととした。

11. 4月理事会審議事項の確認

- 1) 名誉会員候補者の選出
- 2) 各賞受賞者の決定
- 3) 地質環境の長期安定性研究委員会の解散及び法地質学研究委員会の設立
- 4) 地質学雑誌投稿編集出版規則の改正
- 5) 2022 年東京・早稲田大会のセッション変更と開催形式
- 6) 学会活性化に関わる会費等の変更と関連規則（定款、運営規則）の改正
- 7) 表彰制度の見直しと関連規則（運営規則、各賞選考規則、各賞選考委員会規則）の改正

- 8) 研究奨励金支給規則案
- 9) 早稲田大会でのダイバーシティロゴ導入
- 10) 2021 年度事業実施概要
- 11) 2022 年度事業計画
- 12) 2021 年度決算概算
- 13) 2022 年度予算案
- 14) 総会議案の決定

監事総評

岩部監事より下記コメントがあった。

- ・ 2022 年早稲田大会では 2 年ぶりの巡検実施を予定しており、安全な実施に向けてガイドラインの整備等更なる検討を進めていただきたい。
- ・ 総会、理事会等重要会議のリモート開催が、今後も法的に認められるかについて、念のため法人法等の確認をお願いしたい。

以上

2022 年 4 月 9 日
一般社団法人日本地質学会
執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

今後の予定

- ・ 2021 年度第 11 回執行理事会 2022 年 4 月 9 日（WEB）10 時
- ・ 2021 年度第 5 回（定例）理事会 2022 年 4 月 9 日（WEB）14 時
- ・ 2021 年度第 12 回執行理事会 2022 年 5 月 14 日（WEB）13 時
- ・ 2022 年度（第 14 回）代議員総会 2022 年 6 月 11 日（土）14 時